

1) 『人権』に関して

- ・セクシュアルハラスメント防止のため、社員が利用できる相談窓口を設置し外部の弁護士に相談できる仕組みをつくりました。
- ・前年度に、反社会的勢力（暴力団など）による不当要求には応じないことを宣言したことを受け、対応マニュアルの整備や配布にとどまらず、実際の事例を参考により幅広い知識や対応の仕方の普及に努めました。
- ・定年後も継続して就業できる「再雇用制度」を整備しました。

2) 『労働基準』に関して

- ・メンタルヘルスの仕組みについて管理職社員向けに研修を行うことにより、啓蒙と対策の普及に努めました。
- ・目標管理制度の運用面での改善を図るために、「考課者研修」を年2回実施し、部下との面談の手法や、マネジメントの責務などについて意識の向上を図りました。
- ・前年度に引き続き、役員や社員が自分の専門性や業務知識、仕事観を後輩に伝える「アマタスクール」を開講し、自部署で修得できる専門知識や会計知識、PCスキルなど全15講座を設置しました。
- ・前年度に引き続き、社員が自分の思いを自由にかたちにする「創発プロジェクト」を開催しました。今年度は、アイデア部門（業務改善提案）と事業企画部門（ビジネスモデル提案）とに分け、計101件のエントリーがありました。書類選考やプレゼン大会を経て、11件の提案に対して活動資金がおりました。
- ・職場の安全衛生管理を充実させるために、産業カウンセラーを設置しました。また、製造所については、拠点診断と人事面談とを実施し、課題の抽出と対策を行いました。
- ・仕事とプライベートとの両立を図り、心身ともに豊かな生活を送るために、就業時間の短縮について呼びかけを行いました。また、一部部署において「一ヶ月単位の変形労働制」を導入し、効果的な就業時間短縮につなげました。

3) 『環境』に関して

- ・MSC、FSC 認証事業において、顧客数拡大を通して世界的な資源枯渇の問題に取り組みました。
- ・日化スミエイト株式会社を吸収合併し、茨城循環資源製造所を開設しました。ここは、関東圏における再資源化の拠点として、産業廃棄物のリサイクル率向上に寄与しています。
- ・グリーン購入ネットワークが主催する『第9回グリーン購入大賞』において、MSC 認証

事業が「審査員特別賞」を受賞しました。

- ・即存の廃棄物セミナーに加え、新たに「環境 CSR プロデューサー養成講座」を開講し、企業の CSR エキスパート養成のための教育セミナーを社外向けに発信し CSR の啓蒙に努めました。
- ・総合環境ソリューション企業として培ってきた経験や知識、ノウハウを活かし、環境分野における専門性の高い業務に携わる人材を教育し、企業に派遣する「環境ソリューション人材派遣事業」を開始しました。弊社にて人材を登録し、専門教育を行ったうえで、企業のニーズに合わせた環境ソリューションを提供する人材を派遣します。
- ・大阪大学がサステナビリティ学連携研究機構のネットワークを活用して実施するアジア初のサステナビリティ学の教育プログラムやその研究方針に賛同し、その中核メンバーである大阪大学と SD（サステナビリティ・デザイン）オンサイト研究センターにて進められる共同研究への参画を本格的に始めました。
- ・アマタが事務局を担当している「エコ産業創出協議会」で、地球温暖化をできるだけ抑制し、地球を「クール」に保つため、CO2 削減をめざすアイデアを世界中から広く募集する『"Cool the Earth" アイデアコンテスト』を開催しました。
- ・京丹後循環資源製造所に隣接する未利用の森林で、森林酪農という自然放牧型の酪農手法を取り入れるなど、新たな森林価値づくりの取り組みを始めました。
- ・「森林ノ牧場」内にて、地域の人々を招いたワークショップを開催し、地域住民との交流を図ると同時に、自然放牧型の「森林酪農」を幅広く紹介する機会を創出しました。
- ・排出事業者が処理委託先の管理業務負荷の軽減と、廃棄物管理におけるコンプライアンスの徹底が同時に、且つ低コストで実現できる産業廃棄物処理委託先モニタリングの ASP サービスを開始しました。

4) 腐敗防止に関して

- ・内部統制のための業務フローを作成し、2009 年度から適用となる J-SOX 法施行に向けての準備を行いました。
- ・コンプライアンスチェックテストを全社で実施し、各自の認識度を測ると同時に、啓蒙を行いました。
- ・茨城循環資源製造所にて火災事故が発生したことをふまえ、事故対策本部を設置し再発防止の徹底に努めました。